

講習の名称	【選択】 図画工作科・美術科における鑑賞の指導—みる・きく・はなす—
講習の概要	「対話型鑑賞」の手法について学びます。対話型鑑賞は MOMA の学芸員 アメリア・アレナスが開発、提唱した鑑賞者を主体とする鑑賞教育の手法で、近年では日本の学校教育でも盛んに取り入れられています。本講習では対話型鑑賞の意義や役割、学校教育で行うにあたっての注意点をアレナスらの著作から学びます。また作品に関して児童生徒の発言をいかに引き出していくか、教師の発話やナビゲートの技術、また評価のポイントについて、実際の美術作品の前で受講者自ら話し合ってもらうことによって、実践的に学びます。
担当講師	小林 俊介（地域教育文化学部担当教授）
講習開設日	平成 30 年 12 月 26 日
時間数	9:30-16:50（6 時間）
開催地	山形県山形市
会場・教室	地域教育文化学部 1 号館 3 階 132 演習室（建物 No. A7）
対象職種	教諭
主な受講対象者	小学校教諭，中学校教諭（美術），高等学校教諭（美術）
受講予定人数	13 人
受講者への連絡事項 （持ち物等）	筆記用具
評価基準	全時間出席し、口頭試験、提出物が 60 点以上であること。
評価の観点	対話型鑑賞の要点を理解し、実践できるか否か
その他特記事項	なし